

中央検査部

《概要》

日本の医療制度は平均寿命や健康寿命を延長させ、世界最高をもたらしたが、厳しい経済状況や少子高齢化で、医療を取り巻く環境が大きく変化しています。この様な状況下、幾度もの医療改革を経て、医療の標準化と効率化を図ると同時に医療費を抑制する事を目的にした包括医療(DPC)が推進されています。当院でも入院医療の殆どがDPC対象となっています。

この様な変化する厳しい環境の中で、今年度の中央検査部においても、柔軟に対応する様に取り組みました。DPCにおける検査体制としては、重要なポイントとなる外来検査の充実(特に検査の迅速化)を行いました。例えば、検体検査では、診察前検査が普通に行える体制を整え、又、生理検査の超音波検査においても、当日緊急枠を設けて、緊急対応できる様な体制を整えました。

限られた人員でも柔軟に対応できる様に、的確な人員配置を行い、効率的な検査部を運営する事により、効率的に診療をサポートして、良質な患者サービスにつなげたいと思います。更に、それにより経営面でも改善に結びつけ、又新たな良質な検査を提供できるための投資を行える良い循環を作りあげたいと思います。

《実績》

平成22年度上期【外来】統計(項目数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
生化学	68,200	59,758	66,642	68,785	65,523	63,638	392,546
血清	5,523	4,844	5,336	5,359	5,037	4,934	31,033
血液	14,304	12,622	14,122	14,374	14,352	13,293	83,067
一般	6,563	5,642	6,526	6,909	6,776	6,320	38,736
輸血(マッチング除く)	2,662	2,230	2,796	2,736	2,543	2,376	15,343
病理(組織)	217	183	184	197	196	173	1,150
病理(細胞)	661	565	649	589	499	614	3577
細菌(一般)	635	516	498	559	552	882	3,642
細菌(抗酸)	50	32	43	48	36	17	226
生理機能	2,667	2,267	2,791	2,694	2,422	2,494	15,335

平成22年度上期【入院】統計(項目数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
生化学	40,863	39,196	39,194	37,536	38,179	36,211	231,179
血清	909	805	840	821	818	768	4,961
血液	10,096	9,590	9,933	9,999	9,663	9,241	58,522
一般	2,079	1,815	2,022	1,924	2,469	1,820	12,129
輸血(マッチング除く)	879	961	977	855	893	886	5,451
病理(組織)	206	195	223	203	223	204	1,254
病理(細胞)	47	53	64	43	57	38	302
細菌(一般)	1,695	1,730	1,719	1,626	1,777	1,795	10,342
細菌(抗酸)	50	61	77	47	54	59	348
生理機能	567	452	498	461	503	463	2,944

平成 22 年度下期【外来】統計（項目数）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生 化 学	66,118	66,051	66,003	64,946	61,929	69,793	394,840
血 清	4,997	5,312	4,910	5,080	4,837	5,581	30,717
血 液	13,334	12,773	13,117	12,604	12,004	13,460	77,292
一 般	6,574	6,385	6,354	6,125	5,994	6,805	38,237
輸血(マッチング除く)	2,351	2,514	2,453	2,446	2,370	2,824	14,958
病 理 (組織)	188	237	234	196	202	222	1,279
病 理 (細胞)	690	663	624	598	608	728	3,911
細 菌 (一般)	546	521	526	436	387	456	2,872
細 菌 (抗酸)	34	32	49	32	27	26	200
生 理 機 能	2,622	2,752	2,518	2,385	2,528	2,960	15,765

平成 22 年度下期【入院】統計（項目数）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生 化 学	35,449	36,529	39,163	38,035	35,101	39,837	224,114
血 清	749	861	884	892	773	882	5,041
血 液	8,492	8,723	9,453	9,171	8,544	9,412	53,795
一 般	1,727	2,338	2,157	2,016	2,255	2,302	12,795
輸血(マッチング除く)	851	1,055	941	825	748	893	5,313
病 理 (組織)	189	210	205	203	204	216	1,227
病 理 (細胞)	80	38	49	52	59	57	335
細 菌 (一般)	1,728	1,887	1,933	1,743	1,609	1,672	10,572
細 菌 (抗酸)	84	41	54	66	64	48	357
生 理 機 能	484	462	484	489	483	467	2,869

平成 22 年度解剖件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計
件 数	0	0	0	2	0	0	2
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期合計
件 数	0	1	2	1	1	1	6
						総合計	8

心電図(一般・負荷)件数 2010.4~2011.3

	一般(外来)	負荷(外来)	一般(入院)	負荷(入院)
4月	904	186	184	5
5月	772	152	112	3
6月	942	155	145	6
7月	941	161	141	3
8月	847	136	152	0
9月	848	129	128	6
10月	886	180	135	2
11月	951	184	139	4
12月	899	147	144	3
1月	837	149	128	4
2月	858	175	151	5
3月	932	206	131	2

超音波検査(乳腺・甲状腺)件数 2010.4~2011.3

	外来	入院	合計
4月	344	10	354
5月	274	9	283
6月	308	11	319
7月	345	3	348
8月	278	11	289
9月	324	9	333
10月	313	12	325
11月	337	7	344
12月	302	13	315
1月	290	6	296
2月	262	8	270
3月	350	15	365

超音波検査（腹部）件数 2010.4～2011.3

	外来	入院	合計
4月	362	66	428
5月	287	61	348
6月	349	57	406
7月	338	62	400
8月	358	51	409
9月	368	67	435
10月	359	64	423
11月	346	53	399
12月	344	48	392
1月	319	56	375
2月	344	56	400
3月	403	50	453

超音波検査（心臓）件数 2010.4～2011.3

	外来	入院	合計
4月	357	105	462
5月	309	100	409
6月	387	101	488
7月	353	106	459
8月	321	101	422
9月	333	99	432
10月	364	96	460
11月	385	99	484
12月	345	109	454
1月	323	123	446
2月	340	100	440
3月	415	120	535

平成 22 年度 CPC 症例

解剖番号	性別	年齢	診療科	臨床 診断	病理 診断 (主病変)	CPC 実施日
469	男	78	内	誤嚥性肺炎、慢性腎不全、 両側腎動脈塞栓術後、 虚血性腸炎、糖尿病	糖尿病、膜性腎症	2010/6/9
471	女	78	内	敗血症、細菌性肺炎、 間質性肺炎、心房細動、 狭心症、心不全、 コレステロール塞栓症	陳旧性心筋梗塞 (左心室側壁、心内膜下、心重量:495g)	2010/8/18
473	女	69	内	多発性骨髄腫	多発性骨髄腫 (浸潤: 脾・腎・肝・リンパ節)	2010/10/20
478	男	72	内	糖尿病、るいそう、 低ナトリウム血症	糖尿病、るい瘦	2010/10/20
490	男	84	内	非ホジキン悪性リンパ腫	悪性リンパ腫 (びまん性、大細胞型、B細胞性、浸潤: 肝・脾・腎・睪・肺・ 精巣・胆嚢・横隔膜・心外膜・骨髄)	2011/3/29

(* 平成 22 年度 病理解剖件数 8 体)

《業績》

(1) 学会報告 (2010.4～2011.3)

番号	演 題	発 表 者	学会・研究会名	年 月 日
1	Turning point 分岐点 私を成長させた症例(きっかけ)	○根来利次 米本隆浩 小島義忠 中嶋忠雄 今北正美	日本医学検査総会	2010. 5. 22
2	新 WHO 分類 2008 年による芽球の定義について	○根来利次 小島義忠 中嶋忠雄	血液標本検討会	2010. 7. 15
3	新 WHO 分類 2008 年による単球系細胞の分類方法	○根来利次 小島義忠 中嶋忠雄	血液標本検討会	2010. 9. 16
4	超音波検査が診断に有用であった乳児嵌頓ヘルニアの一例	○中村雅美 飯干泰彦 位藤俊一 松本文博 水野 均 山村憲幸 藤井 仁 人羅俊貴 岡 和子 伊豆蔵正明	関西地方会学術集会	2010. 10. 23
5	「赤血球恒数からのアプローチ」 血球係数から異常値をとりこぼさないために	○根来利次 小島義忠 中嶋忠雄	和歌山県臨床検査技師会	2010. 11. 6